

京大水産実験所の中村助教授から

天皇陛下に15種のハゼ

「送ってもらえませんか」

侍従通し親しくご依頼

京都大学付属水産実験所は三日、先月三十日に市商工観光センター内で天皇、皇后両陛下がご覧になった十五種のハゼ約六十匹を、東京の皇居内生物学御研究所に向けて送った。展示について説明した同実験所の中村泉助教授が、ハゼの研究に取り組み続けている天皇陛下から侍従を通して依頼された。

同実験所の益田玲衛助手や京大大学院生の原田慈雄さんらが、長浜沖でチャガラのほか、赤穂市の千種川でエドハゼなどを採集、海水や汽水などの四つの水槽を同センターに設置しハゼを展示した。特にエドハゼなどは、水のきれいな干潟にしか生息していない珍しい種類という。

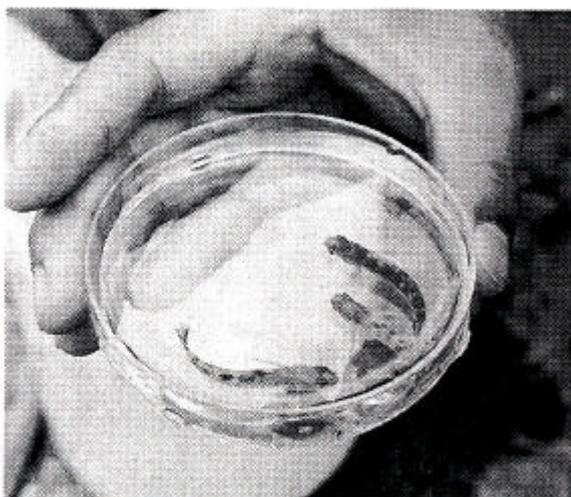
同センターをご訪問された天皇陛下は、ハゼの水槽を熱心にご覧になり、説明役を務めた中村さんらにご質問されるなどし、二十分間の予定を十七分もオーバーされ、ご自身の研究テーマのハゼに強い関心を示された。

翌日の一日朝、天皇陛下に同行している侍従の目黒勝介さんから中村さんへ電話があった。目黒さんもハゼの研究者で、天皇陛下が皇太子殿下の時代から宮内庁に入り、天皇陛下との共著で論文も発表している。中村さん

ん夫妻はオーストラリア博物館で、目黒さんと一緒に仕事をした親しい研究者仲間。

中村さんは過去十回ほど、魚類学会のシンポジウムで、研究者としてご出席されていた天皇陛下とお会いし、魚についての意見を交わしたことがあった。また、妻の禮子さんの父で元東京水産大学学長の黒沼勝造さんが、皇太子殿下だった天皇陛下に魚類学について講義をしたこともあった。

展示されていたハゼに興味を持たれた天皇陛下は、こうした縁があった中村さんへ目黒侍従を通して、送ってもらえませんかと親しく依頼された。益田さんらがクボハゼなどを宅配便で送った。中村さんは「天皇陛下のハゼの研究は国際的にも有名。同じ魚類研究者として、天皇陛下にご説明させていただいた」と話していた。



長浜沖で採集して送られたハゼ「チャガラ」